

# 財産目録の書き方

## 1 住所・氏名等

財産目録			
1 住所・氏名等		令和2年	2月24日
住所	吹田市〇〇町1-2-3	氏名	吹田 太郎

## 2 財産の状況

### (1) 預貯金等の状況

#### 2 財産の状況

##### (1) 預貯金等の状況

金融機関等の名称	預貯金等の種類	① 預貯金等の額	金融機関等の名称	預貯金等の種類	② 預貯金等の額
手持ち現金	現金	100.000 円			円
〇〇銀行吹田支店	普通	120.000 円			円
		円			円
③ 預貯金等の合計 (A)					220.000 円

① 申請書を提出する日現在の、自宅や事務所等に保管している手持ち現金の額を記載します。

② 預貯金等については、金融機関等の名称及び支店名、預貯金等の種類（普通、当座、定期、貯蓄など）及びその金額を記載します。

③ 手持ち現金及び預貯金等の額の合計を「預貯金等の合計（A）」欄に記載します。

※ 預貯金等のうち、借入の担保になっているものについては、「(3) その他の財産の状況」欄の「その他財産」欄に記載します。

### (2) 売掛金・貸付金等の状況

#### (2) 売掛金・貸付金等の状況

売掛先等の名称・住所		① 種類	回収予定日	② 回収方法	売掛金等の額
A会社	〇〇市〇〇町1-2-3	売掛金	令和2・8・13	振込み	1,000,000 円
B会社	〇〇市〇〇町1-2-3	売掛金	令和2・10・26	現金	500,000 円
C会社	〇〇市〇〇町1-2-3	売掛金	令和2・3・26	小切手	500,000 円
D会社	〇〇市〇〇町1-2-3	貸付金	令和2・3・26	振込み	500,000 円

① 売掛金、貸付金、未収金等の種類を記載します。

② 現金、振込み、手形、小切手等の回収方法を記載します

### (3) その他の財産の状況

(3) その他の財産の状況		①	②	③
財 産 の 種 類			担保等	直ちに納付に 当てられる金額
国債・株式等	△△株式会社 上場株式 200 株		<input type="checkbox"/>	200,000 円
不動産等	資材置き場用土地 (〇〇市△△町××)		<input checked="" type="checkbox"/>	0 円
車 両	車両 1 台 (ミニバン、△△330 あ〇〇〇〇、ローン有)		<input type="checkbox"/>	0 円
その他財産 (敷金、保証金、保険等)	〇〇生命 契約番号: 12-123456 A 銀行吹田支店 (定期預金 400,000 円)		<input checked="" type="checkbox"/>	0 円
			合計(B)	200,000 円

不動産、国債・株式等の有価証券及び車両など、所有している財産の種類、数量、所在地等を記載します。

①財産をそれぞれの欄ごとに具体的に記載します。

また、「その他財産」欄には、敷金、保証金、保険等のほか、預貯金等のうち、借入の担保になっているものを記載します。ただし、「(1) 預貯金等の状況」欄に記載した財産は、記載する必要はありません。

② 記載した財産に抵当権等の担保権が設定されている場合にチェック (☑) を付けます。

③記載した財産のうち、現金化することが容易で、直ちに納付に充てられる財産の金額を記載し、その合計金額を「合計 (B)」欄に記載します。

### (4) 借入金・買掛金の状況

(4) 借入金・買掛金の状況					
借入先等の名称	借入金等の金額	月額返済額	返済終了(支払) 年 月	追加借入 の可否	担保提供財産等
〇〇リース	800,000 円	15,000 円	令和△△年 3 月	可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否	資材置き場用土地 (〇〇市△△町××)
〇〇銀行△△支店	9,600,000 円	80,000 円	令和△△年 3 月	可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否	
	円	円	令和 年 月	可・否	

借入先等の名称、借入総額、月額返済額、返済終了 (支払) 年月、追加借入の可否及び担保提供財産等を記載します。

①毎月の平均的な返済額を記載します。

②借入金の返済が終了する、又は買掛金等を支払う年月を記載します。

③借入の枠が残っているなど、追加借入ができる場合は「可」に、できない場合は「否」に○印を付けます。

④借入等のために抵当権を設定しているものなど、担保として提供している財産等を記載します。

### 3 現在納付可能資金額

先に「②当面の必要資金額」の内容」欄を記入します。

(事業者の場合)

「②当面の必要資金額」の内容

項目		金額	内容
支出見込	事業支出	<b>5,500,000</b> 円	仕入代金 1,500,000 円 + 給与 850,000 円 + 役員給与 650,000 円 + 工場修繕費 1,500,000 円 + 借入金返済 450,000 円 + 諸経費 348,000 円 + 社会保険料等 202,000 円
	生活費 (個人の場のみ)	円	【扶養親族 人】
収入見込		<b>4,500,000</b> 円	事業収入 (取引先3社からの売掛金回収額) ・ A 機器株式会社 (東京都〇〇区△△町) ・ 株式会社 B 電子工業 (埼玉県〇〇市△△町) ・ C 精密工業株式会社 (愛知県〇〇市△△町)
(支出見込) - (収入見込) (C)		<b>1,000,000</b> 円	マイナスになった場合は0円

(個人の場合)

「②当面の必要資金額」の内容

項目		金額	内容
支出見込	事業支出	円	
	生活費 (個人の場のみ)	<b>250,000</b> 円	【扶養親族 2人】 本人 (100,000 円) + 家族等 2人 (45,000 円 × 2人) = 190,000 円 収入 (300,000 円) × 20 / 100 = 60,000 円 190,000 円 + 60,000 円 = 250,000 円
収入見込		<b>300,000</b> 円	給与
(支出見込) - (収入見込) (C)		<b>50,000</b> 円	マイナスになった場合は0円

申請書を提出する日からおおむね1か月以内に支出する事業の継続、生活の維持のために必要不可欠な金額及びその主な内容、収入金額及びその主な内容を記載します

(1) 支出見込（事業者の方は①、個人の方は②を参考に記載して下さい）

① 事業支出

仕入、給与・役員給与（人件費）、家賃等、諸経費、借入返済その他の支出を記載します。

合計額を「金額」に、内訳を「内容」に記載して下さい。

なお、これらの支出は、事業の継続のために真に必要と認められるものに限られるため、例えば、次に掲げるようなものは認められないことに留意してください。

- ・ 不要不急の財産の取得のための支出
- ・ 期限の定めのない債務の弁済のための支出

※ 減価償却費など、実際に支払を伴わない費用などは「支出」に該当しません。

給与、報酬などの支出の見込金額は、源泉徴収する所得税等を差し引いた金額を記載してください。

② 生活費

納税者及び納税者と生計を一にする配偶者その他の親族の生活費（以下、家族等といいます。）として、次のA又はBのいずれかの方法により計算した金額を記載します。なお、家族等が自身で生活費を負担している場合はその金額を控除してください。

**A**

納税者本人・・・100,000 円（ア）  
家族等・・・・・・1人につき 45,000 円（イ）  
基準額・・・・・・（「収入」－（ア＋イ））×20/100  
又は  
（ア＋イ）×2 } いずれかの少ない金額（ウ）

（ア）＋（イ）＋（ウ）＝生活費として計算します。

なお、納税者及び家族等の年齢、所有資産、健康状態などの事情を勘案して、養育費、教育費、治療費など生活の維持のために必要不可欠な支出として、基準額（ウ）を超える金額の生活費を見込む必要がある場合には、必要最低限の所要資金の額を基準額に加算することができます。

**B**

実際の生活費（通常必要と認められるものに限り）を合計した金額

なお、「金額」欄に合計額、「内容」欄には A の計算式、又は B の内訳を記載して下さい。

（A の場合、基準額を求める計算式のほか、基準額に加算又は減算するものがある場合にその理由を「内容」欄に記載します。Bの方法により計算した場合には、その積算した食費、家賃、水道光熱費などの金額の内訳を「内容」欄に具体的に記載します。）

## (2) 「収入見込」欄

計算期間に入金予定の事業収入、給与収入、その他の収入金額及びその主な内容（給与収入の場合は支給者の名称・所在地、事業収入の場合は取引先の名称・所在地等）を記載します。

例の【備考】欄はAの計算式を書いています。

## (3) 「(支出見込) - (収入見込) (C)」欄

支出見込額から収入見込額を控除した金額（マイナスの場合は、0円とします。）を記載します。

## 現在納付可能資金額

### 3 現在納付可能資金額

①当座金額 ((A) + (B))	②当面の必要資金額 ((C))	③現在納付可能資金額 (① - ②)
<b>420.000</b> 円	<b>1.000.000</b> 円	<b>0</b> 円

①太枠で囲まれた「預貯金等の合計 (A)」「その他財産の状況の合計 (B)」を足し合わせた金額

②太枠で囲まれた「(支出見込) - (収入見込) (C)」の金額

をそれぞれ記入し、①から②を引いた金額を③に記入します。（マイナスになった場合は「0」と記入してください。）